(二日夕刊)
磐城新聞
休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料(二行五十錢指定廿錢增)
發行兼編輯印刷人 蓮沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

泥濘(下)

深野四郎五郎

さつきから、枕れに座つて傷の看護をして呉れたた種に、こう聞かれてから初めて良人も父親も居ないのに氣が附いた。

良人も、父親も田て行つたと知ると急に自分の腹が心配になつて來た、何んだかこの儘死んで行く樣に不安でならなかつた、そして、た種に其の夢をうちあけて見た、お種はしは！ちやに口元に氣味惡い笑を浮かべながら、うん〳〵うなづきながら聞いて居た

「そうだつたのかい、たいらも日頃からあんたの体の變つたのに氣が付いてたんだが、子が出來たんだな」と云つて

(そんなら)とお種は何やら得体の判らぬ草の根を煎じて飲めと云ふ、た光はまあと驚いたがそれでも(その煎んじるものは何處にあるのか)と聞いて見た(我家に取つて來てある)とお種が云ふので(試した事があるか)と問ふと(ある、この自分がしたのだ)と譯もなさそうに答へた

た光は自分もそうしたおが良い樣に思へるの、あつた、良人はふりきつて出て行つたのだからすぐにはもどるまい、父親だつて今迄幾回となく家を出て、一月目位に歸つてくるのだから今處だつてやつぱり一月位は歸らないだらう、こう思つて居る間もお種は傍でしげ〳〵それをすゝめるのであつた。

た光は試しに飲んで見る氣になつて

「すぐ出來るのかい」と聞いて見た

「あゝ、すぐだよ、じや飲んで見るんかい」と云ひ〳〵お種は立上つて

(まつて居な、すぐ來るから……)と云ひ殘して出て行つたお種が出て行くとお光、は飲んでもいゝがずいぶん苦しむ樣に思われるが下りてしまへば後の厄介も無くなるのだから、かまふ事はないと云ふ無持になつた。やがて

「た光さん、出來たよ」とお種が家へ入りながら云つた言葉がなんだか重苦しく聞れた

「此處へおいとくから、一人で飯な、たいらは少し歸つて寢たいから……」

と云つてた種はすぐ歸つて行つた。

お光は再びどうしようと思つたが、飲めばどうにかなるだらうと全つたく自分のするこどがわからない樣にお種の持つて來た土瓶に手をかけて、口元へ持つて行つた、ふんと惡臭が鼻を突いたが、かまはずぐつ〳〵と空になるまで飲みつくしてしまつた。

× × ×

た光は、再びうつ〳〵寢りかけたがだんだん不安が強くなつてきた、頭を誰かがたさへて居る樣なので手を頭へ上げて見たが布で卷かれて居るだけであつた。

無暗に水が欲しくなつてお光はふら〳〵と立上つて障子に手をかけ〳〵出て行つた、勝手の水甕を見たが水は少しも無いので、井戸へ行こうと板戸をやつと開けて外へ出た寒やすい冬の夕陽がまぶしかつた、

やつと井戸端の泥を越へて井戸のつるべに手をかけた、つるべの繩は氷つて切れる樣につめたい、つるべの中に半分程の水が淡水におほはれて居るので、それを裂して腰を曲げて冷めたい水に口がふれたとたん、なら〳〵と吐氣を催し口をおさへる暇もなくぐつ〳〵とけあがつてきた吐物が口からあふれて井戸の中へ流れ落ちた、其後から赤血がどう〳〵出るとた光はぐつたり井戸端へ倒れた、その翌朝、元朝詣りの若者に泥濘に冷めたくなつて居たた光の体が見つけられたその時には家にも隣家にも父親や良人の清三やた種婆さんの姿は見へなかつた(完)

一九二九、四、二四

波浮の港

高野牧夫

夢の如とかろやかに醉へ心地
我か乘れる感傷の舟
すべりゆく
ひそ〳〵と語りゐる磯邊の
幼き戯言よ！
はかなき戀の灯よ！
そは永遠に眠り行きし
純情の處女の物語——
あゝ
波浮の港
波浮の港
波浮の港に春は來る
されど哀戀に身棒げし
優しき乙女はさめざりき

明日の吉凶

舊暦二月二四日　新暦四月四日

▲一白 細心の注意を佛ひ和合を保ちて進むが吉▲二黒 健質味欠くときは目上に見離さることあり▲三碧 人を頼りにする時は何事も鈍りを生ずべし▲四綠 謙遜なれば追々と信用を增すべし物始め吉▲五黄 外より憂ひ事の生じ來り易し世話事は注意▲六白 目に見えても手に取れず大望を起せば失敗▲七赤 石の上にも三年と云ふ諺あり辛抱すべし▲八白 出費のみ多くしてそれだけの効果の擧からぬ日▲九紫 行ひ正しければ目上の助けありて大發展す

紙上相談

家督相續順位

家督相續の順位に就いて庶子は如何なる權利を有するや　(一庶子)

普通は庶子を以て嫡出子の次ぎに立たしめたる(民法第九七〇條)を以て先づ理にかひなひたりといはんか尚次ぎに同第九百七十二條第七百三十七條及第七百三十八條の規定に依りて家族となりたる直系卑屬は嫡出子又は庶子たる直系卑屬なき場合に限り第九百七十條に定めたる順序に從ひ家督相續人となるとあり、第七百三十七條は戸主ノ親族にしてこれまで他家にありたるものが戸主の同意を得て再び家族となりたる場合第七百三十八條は婚姻者が連れ子をなしたる場合なり故に本條の意は右二個の場合において家族となりたる嫡出子又は庶子等は他に本來戸主の家にありて既に法定の推定相續人となりたる嫡出子又は庶子等なき場合に限り第九百七十條の規定による家督相續人となるといふにあり右解釋よりせばたとひ嫡出子にてもせよ一旦出て他家の家族となり再び戻り來るも既にその家に庶子出來をらば最早相續權は庶子に歸しさりて嫡子はこれと爭ふの餘地なきものとなり又若し左樣な場合にあらずとするも茲に長女と庶子男とあれば立派な嫡出子たる長女に相續權なくして何處の馬の骨なるやも知れざる妾腹に出來たる庶子に跡相續を取らるゝの結果になりますこれ果して事理に適したる規定なりや否や大に研究すべき問題なりそれがあらぬか過般の法制審議會では「家督相續權は[illegible]子男に優先す」てふ一條を加へる樣決議してゐるから早晩右樣改正せらるゝ事と思ひます元來庶子入家問題に就いても從來は戸主の同意だにあらば何時にても父の家に入籍することの出來る規定なるも斯くては我國在來の美風たる家族制度を破壞する結果となるからこれぼう止する主旨の下に配偶者の同意をも必要とすることこれ是れ又審議會で可決し濟ですからこれも同時に改正さるゝことゝ存じますイヤ何れにしてもこの點は結構なことです。

講談 幕末[illegible]

(198)　渡邊默禪作　宮野歌春畫

「私は近所のことでもあるし肩がこると云つては行き足がだるいと云つては行き心配があると云つてはウラナイを見て貰うやうな譯でいつとはなしに懇意になつたと思ひなせね、すると一文無しでた粥を拵へることも出來ねわから、濟まないが十文だけ貸して呉れ、ヤレ質に入れた脇差が流れるから二十文用立てゝ呉れ、ソレ煙草代だ湯錢だと云て私から捲上げた錢ばかりも三兩なにがし、天德一枚ポ刀一本の自分ぢやアなか〳〵の大金だが、食ふや食はずにゐる此奴の境界が餘り可哀想だから、願はれる儘に貸してやつたソノ恩を忘れやがつて、如何だい番頭さん、私ゃ名前をかたつてから近所から手の屆くだけ借を拵えてドロンと消ねてなくなつたちやねねか

「いやはや、飛んでもない惡惡を……情けなことだ

逸齋は頭を掻いてゐる

「まア、それも可いさ、それは可いとして茲に一困つたことは同じ長家の糊賣婆の娘を………」

「コレ〳〵、與平大明神、後生一生のた願だ、何卒そればかりは……」

今度は拜み始めた

與平は猛烈にまくしかけて

「その孫娘がた前、番茶も出茶といふ妙齡で些と澁皮の剝けた可愛らしい所へ此[illegible]

俺は今にさる御大名の御抱へになつて千石取の侍になるんだがそうしたら手前を奥さまにしてやるから俺の言ふことを聞けとか何とか、口から出鱈目のだぼらでもつて欺し込んで、とう〳〵自分の物にしたはいゝがお腹でブーと膨れ出して、吹除の狸のやうになつたから大變だ、婆アが怒鳴込む差配は怒る娘は泣くテンヤワンヤの騷ぎが押始まつたらうぢやねえか、そこで長家中へ寄つてたかつて此奴をさんざんな嬲りつけて申譯に腹を切らせやうとしたところが、鰻のさき樣なら知つてるが自分の腹じは勝手が知れねねどうぞ芝居のやうに眞似だけで御勘辨をと、平蜘蛛のやうになつて謝罪つてゐる所へ、俺が出掛けて行つたのが災

取るッてね約束で稍どけりをつけてやつたんだ、それが濟むと間もなく夜逃同樣に飛出して皆目所在が知れねえと來たらう、迷惑なのは私だ娘の婆アから小兒を苦情を一緒くたに持込まれてとのくれえひまを潰したか知れやしねえ、番頭さん譯を話せばざつと此〳〵の通りだ、何と呆れ返つたどうつく張ぢやア無えか」

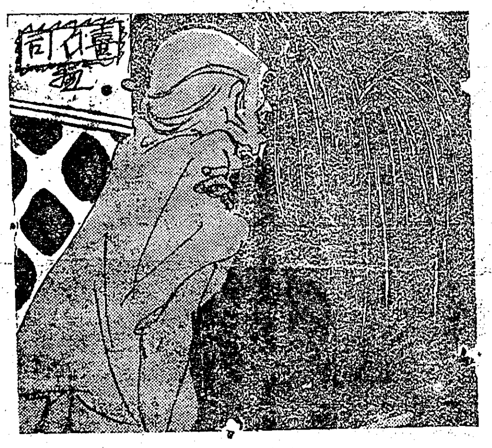
驚くべしである。是が藤屋へ一萬兩の貸金督促に出掛けた大藩の御留守居上りである。堂島へ數十萬の貸本を下してゐると號した大金持の正体である。勘太郎を犬兒扱ひにして足蹴にかけた豪傑である。

「いや、それは始めて聞いた話だがどうも呆れ返つた男だね、なアに私は昨日始めて柳橋で出會つたばかりで立派な御武家衆だと思つてゐたんだが、買冠りは得てある世の中、御馳走酒を飲倒されたと思ひやそれで濟むのさ」

と富藏は其場を繕つて

「したか聞いて見りやア氣の毒な話だ馴染のあるた前さんがそんな災難に出會つたといふのに只聞流す譯にも行くまい、まア仕方がない泥坊に追錢だけれども此奴に立替へたといふ其の金は私からお返し申しませうたい、先生た前さんのやうな人とた交際は眞平だ早く返つてた呉んなせね」

と木村に目交せで知らせるとうなづいて立揚つてこそ〳〵と逃出して了つた。



良い物、揃つた物
ヒナ人形陳列會
二丁目の
福田屋ふとん店

內科 小兒科 其他一般(入院隨時)
前田醫院
植田町本町(電話一二四番)
前田清美
(看護婦見習募集優遇)

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は 三四三番 サシミ

アイギ
こんど仕入れた正札堂のアイギの安賣り見て御座れ いつも安いご御客の聲を早う聞きたい正札堂
一、雨の降る日にやゴム引マント どんな嵐もなんのその
一、生地の自慢は黑セル茶セル それに連添ふレンコート
一、早賣り安値はいつもの主義よ 角力に負けない豊富山
正札堂

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院
(平南町電話一〇七番)

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切叮寧に御教授いたします、た遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

毛糸
防寒用には 丈夫で暖い 英國製毛糸
一オンス 十九錢 二十五錢
手藝材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

平町紺屋町
吉田眼科醫院

內科、小兒科 花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話平局五〇七番

特賣!!
たひら正宗 福島縣清酒品評會一等賞受領
花春 同優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋 山崎合名會社
電話一〇番

內臟外科 骨關節外科 專門 藤本順
整形外科 產科 婦人科 院長 木村寅次郎
外科 婦人科
平町新川町 木村醫院
電話一六四番

營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入 壹俵 金六十五錢
◎日本デ一番評判ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御徳用ナ㋡ノ玉炭
一、玉炭 大箱壹箱 金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前 ㋡阿部石炭商店 電話二三七番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
內科、小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科

政民相拍伸する 四倉町議候補

杉原町長の進退を決す 愈々戰端を開く

石城郡下町村會議員選擧戰はいよ／＼實戰期に入り殊に平町、内郷村、湯本町、好間村等と共に郡下の激戰地を以て目されてゐる四倉町の如きは前町長杉原新吾氏の町長辭任後杉原氏の再選派、四倉電氣社長新妻盛氏派その他各派入亂れて後任町長の爭奪に白熱戰を續けてゐるが後任町長に新しく當選した町議に依て選舉される事とて町會戰結果の顏觸れは直に町長の椅子を決する爲めこれが戰況は各方面から頗る重大視されてゐる即ち殆んど出馬に決定した町議候補の顏觸れは政友派からは

門馬倉次郎（新）湊中次郎（現）新妻盛（新）中野捨與（新）菅波末吉（現）大和田忠太郎（現）長谷川豐之助（新）鈴木莊平（新）氏等名乘りを上げるべくこれに對し民政派は

金成岩吉（新）佐藤熊藏（新）小湊宗吉（現）新妻謙（現）植田萬次郎（現）古川庄平衛（新）須藤久太郎（現）吉田壽三郎（現）西川龜之助（現）氏等

で吉田彌十郎（現中）長谷川虎次郎（現中）氏等の活躍は殆んど確定的で現在政民全く勢力伯してゐるだけに戰期愈々熟するに從つて一大激戰場と化するものと觀られ四倉署當局に於ても取締一切の準備を了せられたと傳へられてゐる。

行く先き／＼で 不評判な石城米

更らに宣傳に力を入れ 販路の擴張が急

石城産米の向上と販路の開拓につき當局は不斷ノ努力を拂つてゐるが本郡米には特長がないといふに起因するもので即ちこの地方の土臺米には主として朝鮮米を使用してゐるのに對し秋田山形地方を初め本郡米等々味付米として混入するものであるが本郡米は味付として秋田、山形米に劣り又硬質に乏しいので永らくの貯藏にならすといふので商人から非常に受けが惡いので結局は一膳飯屋か工場向としかならないといふのが一般の評であるが然し改良程度にたいしては必ずしも他米に劣るとも思はれないしかし要は米が今一段ノ宣傳に力を致して一面政策的に等級標準を上昇せしむれば市場の人氣を呼ぶに難くないと思ふこれを取引實況に見れば販賣方法が徹底に比べ農民の自覺乏しく從つて農業倉庫等を利用しての共同販賣を行ふもの尠く商人は徒らに市場商人の付値に甘んじて個々別々の販路をなしてゐるのと他面取引上移出商人之には往々にして商業道德を無視した行爲をなす等著しく信用を失墜せるもの等あるを見聞する云々するに至つては實に

遺憾千萬 といはねばならぬこれをもふと自今米取引に關しては地方商人にのみ俟たず大いに生産者の自覺を促し農業倉庫の普及共同販賣の指導獎勵と共に一面市場に適當なる販賣所等を設立して從來の缺陷を除き一段の改良と相俟つて大に大々的宣傳に努むる事が急務中の急務と思はれる

新任教員の配置

本縣師範學校出の 郡下の配屬氏名

本縣男子師範學校百六十八名、女子師範學校百四十名專攻科男子三十七名、女子六名、實補養成所十六名の計三百六十七名の新任教員の配置は一日縣視學課か發表されたが本郡の分左の如し

内郷第一江尻浩、湯本尋常（現）田仲重三、赤井第二（現）野木卓入遠野（現）永山猛、勿々尋高（現）島居鴨、湯本（現）秋山忠、高久（現）鈴木正、内郷第三（現）西卷清富、平第一（現）藤田力、内郷尋高（現）木田芳重、磐崎尋高（現）小松隆、平窪（現）木田勝男、田人（現）小澤良二郎、好間（現）鈴木愛三磐崎第一（現）大竹覺脛、小名濱野口實、勿來尋常雫石太郎、飯野志賀昇、平第二草野光司、渡邊氷井昌次、玉川吉田勝平、渡戶三瓶泰道、小名濱角田壽彥、澤渡松原武、桶賣添田榮、勿來芳賀みね子

川部岡元ふみわ、上遠野山野邊チミ、湯本藤田タイ、同千葉とし、磐崎第二瀧ツルヨ、小川只野サワ、鹿島高木フヨ、江名鹿島千代子、内郷第二小宅カネ子、内郷菱沼貞子内郷第三鈴木トヨ、平窪高萩松子、赤井第二草野喜與子、夏井龍内富美子草野山野絢子、泉山崎ヤヲヨ

酒と煙草の巧罪（一）

用ふる人の言分

人間は生に對して強い執着をもつてゐながら而も一方では常に生命を粗末にしてゐる、短氣のために喧嘩をしたり、痴情の果てに一命を棄るやうなことは毎日の新聞紙上に數へきれぬ程にある、醫者から酒、煙草を堅く禁じられた場合にも之に堪へ得ない者が多い、阿片毒者に至つては實に悲慘の限りである「酒と煙草は養生に害あり」といふことは明治初年からの小學讀本にあつて誰でも知つてゐる、然らば酒や煙草が衛生上どれだけの害があるか、好きな人に云はせれば酒や煙草もこれを敵宜に用ふれば衛生に害ない[illegible]つて

精神 を爽快にし疲勞を回復する、若し過度の害を云ふならば飯も同じことである、禁酒會禁煙會が作らるゝならば禁飯會といふやうなものも作られなければならない、酒は人間の精神を興奮せしむるもので李太白の詩も亦酒の功能であつた、彼が酒を飲まない時は極めて平凡な詩を作るが一度酒盃を重ねて醉眼朦朧として老顏紅を呈すれば胸に白髮三千丈―底の雄大なる詩を作つてゐた、また

煙草 の煙にしても、さうである、彼の普佛戰爭の媾和條約に際して兩將の議論喧々として盡きぬ時英傑ビスマークは「さう喧しく云はずに煙草でも一服飲まう」といつて極めて有利な條約を結んで成功したといふこともあるだから酒や煙草は必ずしも害ではない、否却て或時は有利有効である等と共に勝手な熱を吹いてゐる然しいま自分は一般の定説に基づいて酒、煙草は人間に害ありとして次の

三方 面から考へて見やう、先づ個人についていへば血管硬化、腦溢血等かすべて酒、煙草の原因であることは周知のことでその他保健上の害毒は周知のことであるから今更多くを云ふ必要はないが、社會的に見ると犯罪受刑者の大部分の男は飲酒、喫煙の者である、統計で言ふと大正十四年の我國受刑者男は二萬三千九百十二人で、その中半數以上一萬四千九百二十七人は

飲酒 者である昭和六年度に於いて二萬三千百九十五人の中一萬千三百八人は飲酒者であるのを見ても如何に飲酒が犯罪の原因を爲してゐるかゞわかる、更にこれを經濟的方面から考へるとわが國の米の生産高は昭和元年が五千五百九十八萬三千石昭和二年度が六千二百十萬五千石であるが、その中毎年酒に造らるゝのが四百萬石である、假りに一石卅圓としてもその價格は實に一億二千萬圓での酒の

生産 高は大正十四年度が五百七十九萬五千石、昭和元年度が五百七十九萬六千石飲んでゐる、又外國より輸入の煙草を除いてわが國内地の煙草を製造する爲めに要す、耕作地は三萬八千町歩で、若之に代ふるに有益なる農作物をもつてすればその生産は實に莫大なものである

理想農村 建設計畫

平で協議會

農村の青年子女の郡會熱が著しく高まりつゝあるこの原因に就ては目下の農村の窮狀が主因でその他種々雜多の原因あり足止め策は現代社會の問題となつてゐる即ち農村提興問題がそれである等しく悩まされてゐる状態じあるに鑑がみ縣下各郡農會では中堅農民養成講習會女子農事講習會等その他種々な方法を講じて都會熱の緩和に努めつゝあるが今回石城郡には理想農村建設の目的にて農村理想化實行委員會なるものが組織され十七日午前十時より平町石郡役所内に理想化の計劃その他につき協議會を開催する筈で一般の注目を引いてゐる

下水道改修の 基本調査

平町で今月から

平町では市制實施を前提として下水道の大改修をする計劃であるが來る五月町會議員改選後調査委員を擧げ基本調査を行ふ筈であるが取敢ず永道囑託柴山技師を四月一日から下水道の設計をなさしむることになつたがこの大改修を行ふには少くも二十萬圓位は要するもと見られてゐる

鐵道映畫會

六日郡會議室で

平驛主催に係る鐵道普及の活動寫眞會は來る六日午後六時より平町元郡役所會議室に於て開催さるがその他[illegible]覽さす筈である

准急行列車 停車請願

植田菊田會で

植田町菊多會幹部が中心となつて先般より上下準急行列車の高萩驛延長の陳情をなすべく準備中であつたが既報の如く二三日中に菊多會より會長齊藤治尾、副會長押田憲一、幹事八代正森合芳男に大野武春氏等町より町長代理助役小野忠衛氏木炭同業組合員中より一名炭礦關係者より一名古川縣議その他有志と水戶運輸事務所に調印せる陳情書を提出請願を行ふ事となつた

新シボレー

近く陳列して縱覽

平町材木町シボレー一手販賣イワキ自動車商會では來る四月三日より三日間一九二九年式新シボレー號自動車を陳列して一般に縱覽せしむると

平の春を飾る お雛さまの値段

箱無しものは流行せず 御大典の高御座

平町本通りの際物屋では早くも舊の三月三日の桃節句が近づいて來たので雛類が奇麗に飾り立てられ一層春氣分が濃厚に漂ひ始めた今年の相場から賣行きを聞くに値段は昨年と大差なく△箱入一人組最低五十錢から中一圓上二圓まで△箱入二人組一圓から三圓上十圓まで△御殿入親皇一圓八十錢から最高十圓、八十圓位まで△雪洞二十錢から二圓まで△屏風五十錢中二圓上五圓△簞笥四守物六十錢から[illegible]五圓位まで△菱重箱一圓四五十から同前で一般に二圓内外の物が好く賣れるが最近箱無し人形は流行らぬさうで御大典に因んだ高御座は十圓止りの物が一番賣れるとの事である

等級檢査の開始で 一俵十錢內外高

現在の價格に比して 木炭業者の福音

濱三郡木炭同業組合の木炭等級檢査はいよいよ昨一日より施行される事となつたので諸般の準備を整へたが年々同組合產出百七十萬俵に達してをり地勢氣候の關係から一般に品質優良にて最近著しく聲價を高めつゝあるので檢査施行と共に一層需用を增す事となるべく且價格も現在より一俵に就き當然五錢乃至十錢は高上さるゝ結果となり假に一俵に就き五錢平均高價に販賣し得るとするも年八千五百圓々增加する事となるので非常に喜ばれてゐる殊に石城郡小川地方の生產者及荷主は三十日協議會を開いたが同地方のものは櫟、楢類は一俵十錢雜木類は五錢方高値は請合といはれてゐるが尙石城城內の約半數四萬俵を占めてゐる植田及勿來町より產出さるゝものは濱三郡中最も品質優良と稱へられてゐるだけ同地方の木炭業者は一層の喜びをたゝへてゐる

大典記念林

目下植付準備中

平營林署では御大典記念部林設定方に關し東京營林署の通牒に基きそれ／＼管內各町村に設置方の督勵をなしつゝあつたが石城郡三坂村より廿九丁歩入遠野村より二九丁歩石住村より七丁歩田人組合村より九丁歩の記念造林設定申込があつたが過般東京營林署に申達したが今般石造林地の實地調査等を完了したのでの結果大体設置許可あるらしくこれ等各村には目下植付準備を急いでゐるが種類は主に杉赤松の二種であると

粹樣更らに恐慌

三圓標準の遊興税が きのうから値上

平町新田町藝妓屋關係、粹連を恐慌せしめてゐる例の縣税遊興税は昨四月一日から營業税の賦課徵收法が變り、遊興税は從來三圓以下を免税點としてゐたが新年度からは内務省令により制定されてゐる限度の二圓以上に課税するに至つたものでこれによつて縣の豫算面では二萬八千圓の增加となつて居る次に縣税營業税は從來一等から四等若しくは六等までに區分してその定額に應じて課税してゐたがこんどは一切税率本位に改め課税に合理的均衡をたもたしめることになつたと

大袈裟な 軍鷄賭博

一網打盡檢擧

石城郡内郷村字宮齋藤森松（三八）同須藤常松（四〇）渡邊又市（四九）同渡邊卯三藏（三二）同岡本勇吉（三八）同石塚辰五郎（四二）同濟戶吉郎左衛門（四八）赤井村居住調谷甚藏（五八）平町居住高橋竹四郎（四九）同鈴木小次郎（四二）同小松茂（三二）佐々木梅治（五三）の十二名は三十一日午後二時頃同字技夫長屋栗城定次郎裏庭で軍[illegible]してゐるを平署で探知七海部長以下現場を包圍して一網打盡に檢擧本署に連行の上嚴重取調中であるが斯る大袈裟な軍鷄賭博は平署でも珍らしいとされてゐる

赤十字據金

仲々納まり惜い

平町役場では赤十字社島支部の依托により社員の據金を取立中であるが普通社員の據金年三圓も財界不况の爲めか容易に納まり惜く非常に手を燒いてゐる

飯野青年總會

石城郡飯野村青年團總會は來る三日午前十時より同村小學校に擧行するが郡農會大山技師は農業振興に就て講演を爲すと

有志懇親會

在平日刊記者 非常な盛會

在平日刊新聞記者有志の月次懇親會發會式は三十一日午後六時より岡田時報子宅に於て開會時局談に花を咲かせ各自隱し藝等も出て嘗つてない盛會裡に十時散會した出席者左の如し

楢本東日、馬場福每、大竹、木戶田いはらき、山田、田村民報、平谷國民樋田時事、蓮沼、坂本磐新 榎本報知 （以上）

因に次回は馬場福每か榎本報知子宅の何れかで開會の筈

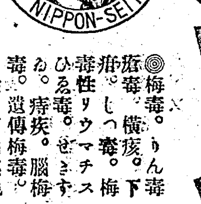
大浦共作開始

石城郡大浦村原田農學實行組合では四月二日午前十時から同村役場に於て四年度共同作業開始について協議をなし午後一時から農學講習會を開催すると

かみなり

久本の「さよ子」と清奴は大の仲よしで姉妹のやうに一串の丸團子も二ツに分けて食ふほどの間柄であつたのだ、それがどうしたことかと喧嘩のもとを聽くと◆一生を托する愛人を得るまでは、た互に處女のほこりを失はないやうにと不戰條約を結んでたものだ、ところが新しい思想の持主たる清奴は、刹那の享樂を求めて酒も飲み出すやうになつたので「さよ子」から善意の警告を發したのがモドだといふことだ◆これを又姉のいく子が心配して、飴が二錢がとこを買つてこれを舐めさせて仲直りをさせやうと奔走してるのは美しい人情だ。

ヒナ人形小道具一式 特價大賣出し
水光齋 祐月製
平町二丁目 陳野洋品店



梅毒（ばいどく）と體毒（からだのどく）を切らず注射せず治す
ベルツ丸
◎梅毒。りん毒 痳毒。横痃。下疳。しつ毒。梅毒性リウマチス ひゐ毒。せきずゐ。痔疾。腦梅毒。遺傳梅毒。惡性皮膚病其他
藥價 輕症用三圓。重症用五圓。頑固用十圓。根切德用廿圓。試用二圓。一圓
地方特約店 平町五丁目角 山野邊藥局

◇四月四日替り 謝恩第二回特別大興行
市川右太ヱ門主演 原作…大路 監督…長尾史錄
松竹提供 白帆を跏る 全八巻
高堂國典、春笠靜子、川端繁 中村吉松、巴蝶子、嵐巖笛
東京大阪每日新聞所載 原作三上於菟吉先生
日活名作 激流 前篇 十巻
岡田時彥、上田英二、島耕二、入江たか子 高木永二、小杉勇、夏川靜江、三桝豐
雜誌（富士）連載 原作三上於菟吉先生
連鎖時代映畫の粹 第二 落花劍光錄 全九巻
澤田清、櫻井京子、中村英夫 澤蘭子、淺香新八郎、常盤操子
爲謝恩 普通席 金十錢
日活 松竹 平館

營業種目
內地材 材木各種、羽柄材各種 建築諸材請負 礦山用坑木其他諸材請負
外材部 米松、米杉、大角製材調達其他請負
佐藤材木店
常磐線平町新川町 電話 三三五番